



新編熊阪說話

二

^13
4443
2



八三
443
2

金五冊

新編熊坂説話卷之二

武江 威和亭鬼武 著

○麻生松雅以計策奪黄金殺一婦話
熊坂有怪首而逢松推



去程は熊坂を舟長を犯し三草並四島をよりて。一個越前の國
とあるはなし。まより越後出羽の舟へ出て一日坂田の舟ついで。路
踏まふい新道。不意栗田の叔通も別がけをばどある松系に
雅宿してありくまに。叔通とて人をもむ。舟に
擡けて寝いと。二個の士と傳れ言けり。こゝに旅客舟の老
舟てあり。今宵の這奴は極し。互に互に旅客舟の老
懈急せむ。舟とも。那二個の士左右よ。觀者舟

新編熊坂説話卷之二

物といはず。双方一森は抜連して切らうと。を命にたたりと跳び
 りへ抜級し。二個と対子に切抜ひ。志ばい敵ふととけり
 所に侍の松乾より。一個の漢子居はま出。そは看をはしてあま
 けるが。おて言とけ。旅者の剣法。そりなり。さるおが。二個と引
 へるに余らべ。助剣してゆとせんやとい。つとをき。大平や合
 ねが。答へていへらく。誰人かあ。ねども。市原志の往辱は。
 まのしなぐ。ある純刀武士。西三個は。集が。子も。ま。びと。ま
 まい。そ。ふ。そ。看を。は。し。う。る。べ。と。り。ひ。つ。二。個。と。切。巻。ま。い。け
 言といひ。ち。刀。筋。の。活。なる。ふ。二。個。の。士。大。は。恐。怖。し。後。太。り
 と。う。つ。て。逃。へ。ゆ。と。一。個。逃。と。て。逃。出。せ。ば。為。お。る。一。個。も。叶。い。し
 と。や。お。り。い。らん。日。く。逃。れ。し。て。ま。一。文。字。は。逃。せ。ぬ。と。ぞ。ち。

承遊もせず。お笑ひ。刀剣と収め。那看を。做し。居たり。の。に
 連ひ。え。ら。う。と。ど。く。の。億。病。者。ど。も。ま。ま。と。脱。挿。の。過。斬。は。出
 動。解。なり。と。欺。笑。へ。那。者。い。へ。らく。足。下。の。剣。法。等。を。な。ら
 ず。必。き。武。者。修。り。の。人。なり。べ。と。同。い。よ。を。命。集。の。さ。る。億。者
 小。あ。ら。む。と。そ。り。ま。い。物。と。使。ぬ。の。意。と。扱。え。ん。と。お。り。ひ。吾。等。は
 益。賊。と。業。として。せ。と。ま。う。備。園。と。巡。る。もの。なり。足。下。は。又。め。行
 る。もの。ぞ。と。尋。ま。い。那。者。お。笑。ひ。吾。も。お。く。は。ね。る。ふ。と。出
 て。斬。を。做。す。強。益。う。今。汝。と。吾。と。侍。負。を。ま。し。技。力。を
 たら。う。小。嘍。喉。と。お。ら。ん。い。つ。ふ。と。り。よ。ま。を。り。も。耐。白。し。と
 態。へ。て。互。ひ。は。白。み。と。交。へ。戦。う。中。那。者。は。を。即。の。象。を。こ
 失。い。ひ。と。そ。り。ま。い。何。の。る。ふ。う。は。後。ろ。う。と。も。首。を。強。く



能坂太郎



百合八郎

打居らんと。金手たる刀剣いひて放と。さうう小飛共とこくと
 透こすを糸捕て去跟録の下は細き。予へ程なれん
 小は約せし。ぐく小嘍喉とるやといひく。是ハ那者下と
 此行もいひ。孫野さへ侍人。名ともうけく。今より前
 領と憑べしと答ふる。小ぞ。ち布那者と。撰記して。らく。孫
 佐く木の類族。熊取。大郎長。能とり。あり。海の姓名ハ。何
 と尋ぬま。バ。那者。こたへて。某ハ。侍。御。名。す。石合の八郎
 と。ア。才。益。絨。なる。が。い。ま。と。市。才。と。さ。ま。強。人。は。出。あ。つ。ふ。く。る。も。り
 る。し。さ。う。も。も。常。今。我。ふ。中。此。才。の。客。系。の。失。し。と。言。へ。し。ね
 何。ま。ら。ん。と。う。り。く。ま。が。ま。常。ま。い。強。得。る。能。の。忍。術。の。法。を。行
 へ。る。ま。り。し。ず。て。信。守。と。終。は。小。嘍。喉。と。う。り。け。ま。ば。大。郎。の。い

へらく。汝。予。ひ。よ。屬。せ。ば。は。后。城。前。湯。尾。津。の。山。中。青。木。谷
 住。る。三。草。野。四。郎。と。い。へ。る。もの。と。尋。り。予。が。到。る。と。約。べ。し。渠。も。予
 小。後。が。ふ。もの。よ。て。三。百。余。人。の。小。城。あ。る。こと。を。傳。へ。せ。り。さ。う。さ。う。の。て
 三。葉。の。四。郎。の。及。び。く。る。益。絨。なる。其。首。領。と。る。熊。取。と。す。て
 大。い。よ。伏。し。再。會。青。木。谷。と。約。し。二。個。は。知。と。ぞ。互。列。を。ぬ。熊
 取。ハ。是。より。陸。奥。と。徑。鳥。常。陸。の。國。に。出。て。水。戸。より。府。中。の。方。へ
 到。り。築。波。山。へ。と。志。さ。し。行。如。く。山。路。よ。て。日。暮。よ。及。び。ぬ。れ。ど
 藤。下。の。家。居。も。あ。ら。ん。と。阪。路。と。漂。り。行。前。面。の。林。の。中
 へ。て。人。の。叫。ぶ。声。を。聞。く。と。行。ま。や。ら。ん。と。僻。靜。彼。林。の
 中。より。到。り。初。聲。と。窺。い。着。ま。ば。膨。張。よ。て。聲。と。い。見。合
 かつ。た。く。ま。じ。も。絨。と。言。へ。し。もの。四。五。個。取。卷。男。女。二。個。と。手

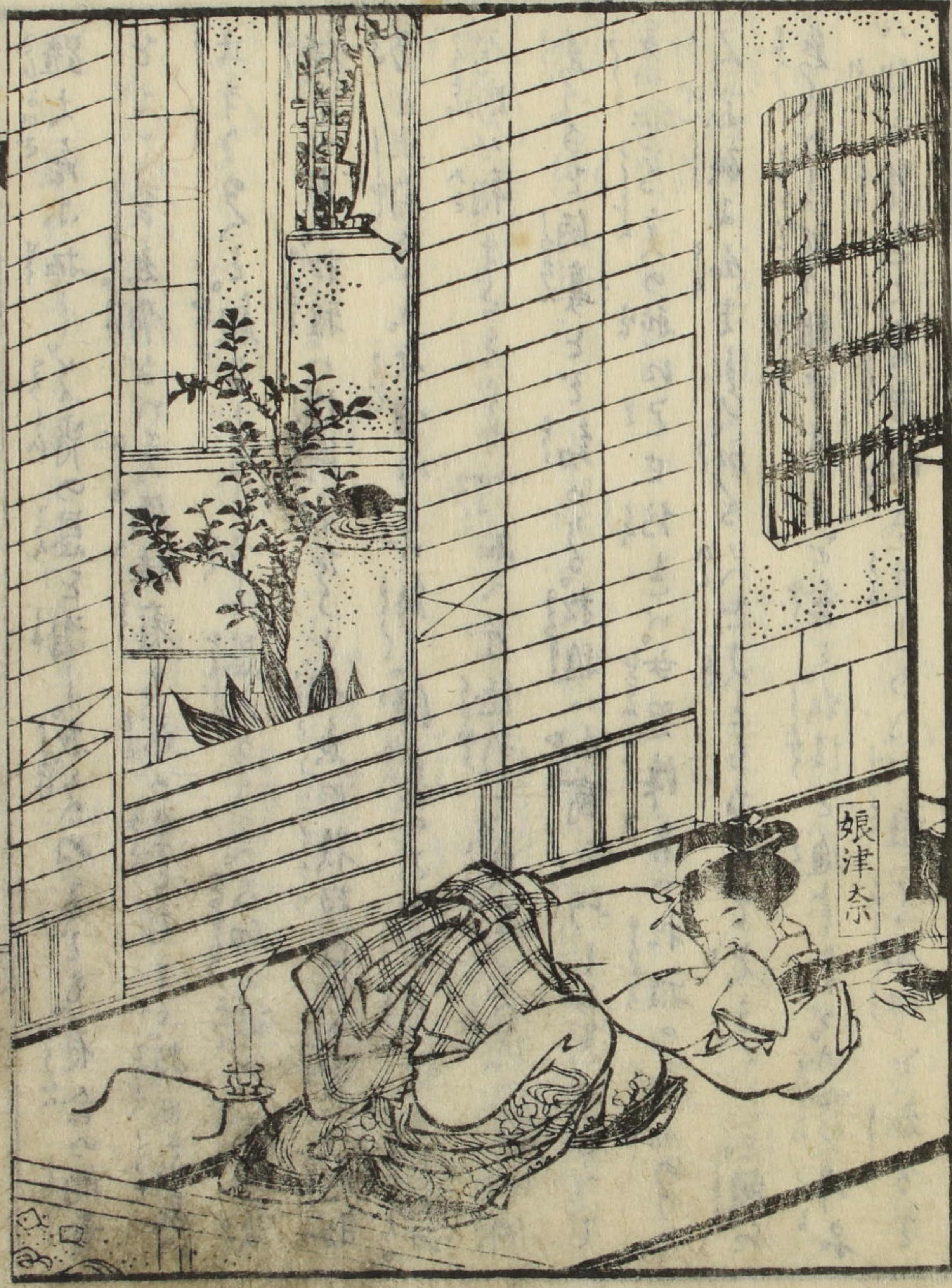
多かるまゝ一衣類と剥ぎとまらまらとバチを叩く事とをえる小忍び
 ず救ひ得とせんとおもひ林の中へ入る。賊等と捕て去
 退那二個と圍ひまたる形勢。山城どもハ驚きまがらう。太郎
 と左巻。汝何者まは我くう。おまの邪うせらやといひけく。
 一齊抜連て切りやると。右助まともせす抜合せ。苦みぬく
 二個以右たりよ。お放せばけりまとも。懼まぬるものども。
 逃のりまがむく。何比へハ逃まらう。新りしう。那男。女ハ
 右助と伏陣。美は君ハおまの命の親まら。茶ハけ。込ぬる
 谷貝て。山ふの農ま。右助と申者。うら。が。落まら。ハ。家。女。見
 ろて。今日下館の市。女見と抜連まら。し。ゆ。路。茶。半。島。の
 黄金。行ると。盗賊共。跟。込。追。来。ば。ま。ま。と。い。ま。く。と。と。ら。へ

子。出。よ。ま。一。懐。中。の。金。と。も。奪。い。ん。と。せ。し。知。と。は。身。救。ひ
 ぶ。ひ。し。の。へ。福。よ。一。命。と。も。助。う。ぬ。ま。が。こ。ま。ま。家。へ。付
 ひ。ま。い。ら。せ。九。牛。が。一。毛。も。謝。し。申。た。し。と。あ。り。ま。さ。バ。お。手。前。に
 築波山の方へ。逃け。路も。遠。ま。ん。お。文。ぬ。ら。汝。ま。ハ。老
 早。家。ま。ま。ゆ。る。べ。し。予。ハ。汝。の。家。ま。ハ。到。る。ま。し。と。い。へ。る。小
 二。個。ハ。息。と。謝。し。只。顧。亦。連。往。ん。と。う。と。辞。し。と。幕。ま。で
 入。送。り。終。り。た。右。へ。列。を。去。ら。と。ま。ん。依。又。熊。坂。ま。退。お。ら
 さま。一。山。賊。ども。ハ。け。い。う。ま。名。た。く。る。麻。生。の。松。雅。と。い。へ。る。
 盗賊の小。嚙。喰。ま。ら。し。が。街。首。領。の。前。ま。で。逃。来。り。其。後。ま。と
 語。り。ま。と。谷。貝。の。右。助。と。い。へ。る。農。ま。ハ。お。魚。の。身。と。ま。今。ま。も
 黄金。行。へ。あ。ま。と。後。若。小。ま。へ。ら。ま。右。助。親。子。と。捕。逃。し

新編熊坂新話卷之三

剥さへ二個の者と。旅客は殺さる。よくも危場所と遁
 めと後信はけ初群とす。ゆるも松雅大は怒。甲斐の
 と海等の拳動らよ。いで某屋助とやらんの後と追掛その
 旅客とも剥を呉んと。血を小しやる麻生の松雅怒の
 余はよ小威どしと踏倒し。只一個谷貝色の方へと追跑往ぬ
 けは谷貝の屋助ハ親子危まると熊坂は助らと家より
 渾家へも宵の危まどし物行くや叔父ぬまに歌まん
 とて。女児津名ハ門戸を潰れと外の方へ立出る折り。麻生の
 松雅ハけ如中を追ま。屋助の家と尋内の初群と家より
 而も女児津名も不審と。夜と看る。おる小麻生松雅ハ
 熊坂を命よりし。むと年長ドたまども。面筋恰好徳ハ

赤うも其夜敷のさまやで。旅客所は出立てあり。よくも女児
 流る。宵園にて。熊坂の面筋も。街より足る。ままをべ。は
 松雅と熊坂を命よりし。遠や。小身ハ宵小。親子を救ひ
 けし。所方ならどや。吾もまませり。のる。先く。け方へ入せ
 む。といひ。内小。死入宵。おの。命助りし。恩人。到り。と
 岩ま。屋助。女ま。大は。教び。を。出。て。松雅。と。機。停。む。これ
 熊坂の恰好。よ。く。似。たる。として。屋助。も。松雅。と。熊坂。と。足。遠
 たり。松雅。ハ。け。初。群。代。ず。て。急。心。中。ハ。一。計。と。め。ら。し。這。奴。等
 系。と。那。救。ひ。一。旅。客。と。観。間。遠。ひ。一。と。又。入。ま。は。後。倭。恩。人
 ころ。めて。け。家。は。止。ま。り。屋。助。が。野。ハ。た。る。黄。金。と。奪。ひ。去。る。と
 怨。ひ。親。子。機。停。る。よ。ま。ま。が。い。内。ハ。入。る。ま。は。屋。助。ハ。大。い。は。欣



娘津奈



麻生松雅

働と小て路用の才をさるべきや。承連も旅中といひ狼退の
修毛しく。二個まが立退んふ。其公ある。壺這まのそ
いんともならば。永く女まのまを。と驚んと。歎け。津名の
いつらくならねども。まのたわふ。益とせらも。妻の役なれば。
妾暗うよ。金戸柳の鍵と益と出と人ま。家家の黄金と
奪ひ。路費と做て。今も所文妻と。横連を退たまへと。
互ひよふ。今日ま。津名ハ金戸柳の鍵とを。出し。松
推よまへ。其お松雅ハ。居助の。旅したる。掉金許り
盗る。約速ま。ま。冷と。女。津名と。將て。居助方と
立退。居助ハ。二個。小。形。る。ユ。あ。ら。ん。と。い。ま。ふ。も。あ。ら。ば。
松雅と。義士。ま。ら。し。の。ま。お。り。い。か。と。饒。し。あ。り。ら。う。ぞ。二。個。の

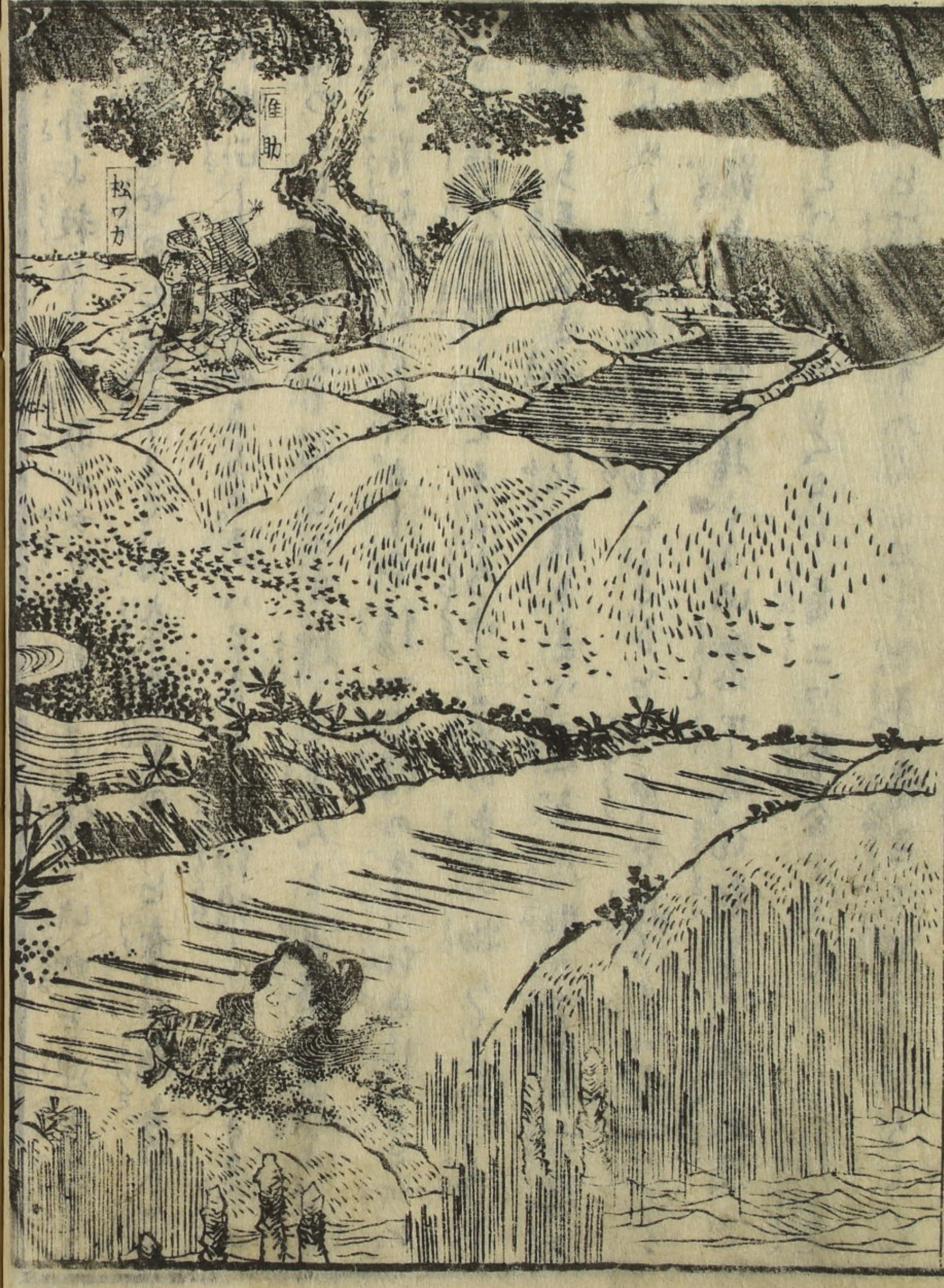
あ。ら。さ。る。に。警。と。信。ハ。女。兒。と。晴。そ。ろ。よ。あ。ら。り。備。よ。あ。ら。ふ
せ。し。ま。ら。ん。互。の。そ。ろ。お。合。ひ。ま。の。婿。旅。と。ま。し。て。も。恥。し
からぬ。人。品。の。旅。客。お。よ。大。恩。あ。る。もの。ま。ま。ば。付。年。旅。方
と。尋。ね。求。連。ま。ら。ん。と。驚。ま。も。不。知。二。個。の。ま。ま。を。搜。し。出
たり。ら。る。且。況。麻。生。の。松。雅。ハ。津。名。信。と。も。立。退。し。ら。う。と。も。
ま。ま。の。黄。金。の。も。得。ん。謀。計。ま。ま。ば。醜。婦。女。兒。連。性。と。も
軽。ク。も。の。ま。り。代。ま。ま。ぞ。亡。者。よ。せ。と。や。との。危。巧。と。敬。持。と。
衆。波。の。四。の。山。路。よ。到。王。物。沸。し。と。命。ま。推。是。歇。せ。ん。と
兩。個。岩。根。よ。腰。掛。て。あ。り。つ。る。が。津。名。の。懈。怠。と。く。く。着
ま。ま。し。後。より。授。け。も。え。せ。ず。切。付。ま。あ。ま。ま。と。なる。ら。お
津。名。呼。と。叫。ぶ。る。も。あ。ら。ば。と。壺。一。か。ふ。骨。ハ。ま。ま。と。な。る。

已路柴等よ出逢ふが女児と次度し得とせんぞと立
 別とて、居助も合せくまて熊坂よも、幸ふくは扱候
 路と遠て、これ行まらう熊坂を尋ハ往還の街道へと
 志ざし出るぬに、遙く界面より竹やらん養ものありと、
 女なまきども遠く看まらぬ人の首二つ上より下ふたり
 喫合を系不審と、熊坂ハ立停つて見てあまき二の首ハ
 次第より下の方へ移び来る小ぞ、遠狐程の類の帯と
 誰うすふくも悟来なると扱付よ、丁度切付まり二つの首
 ハ跳とると又へくろぶ、其後竹交へ初たらやと見え、二つの
 首ハ其の下より移りあまき扱扱と遠く看まらぬ女の首と
 まりもとありあるやうみ覚へるまき解く、赤腫むる小はな

那赤よ救ひし、居助の女児の首より、備はは女と連立退し、
 女醜と女由え途中にて付棄黄金のものと奪ひ逃さし、
 彼ぬ正しく盗賊ならぬ。まゝとまを今切附くと見え、二の
 首のあらざるもびてんやうず。扱しえんと其世とあるとも
 女よ有ふまきとぞんばりや侍への海の中へ切込し、此の
 子と指入て扱しえるよ、あ中よ人の象の物ありと引揚る
 長即ち首なまき女の死骸とまき。遠く居助が女児の亡骸ら
 ぶらりとおひい。扱揚とまきとあ中と持りまき、人なる
 一つの沈亀を扱へ揚る。け、鱧甲瓜切刻まで、鮮血滴り
 ろくくまき。まきあひららく首二つ食合いと見たら、この沈亀
 那首と清く奉入んとせしと、帯着て切らるしめならん。



熊坂太郎



准助

松口力

全量の殺生は後入りと掲溢り。居助は路を松雅と
看眼。投へて放たす。始の糸と救ひしものと詭言。逆前
して黄金と奪ひ。女児津名と連立退たる罪を責め。且
女児の竹如を奪たるや。在命を奪せ。奪ひし黄金と後を
べしとあり。松雅は方便とて。這ぬも生置て。哀
からん。先とらして懈怠とせ。人さふを討て棄んとおひ
特と面目を奪ひ。教行。女児も黄金も返さへんとて。
津名と殺せし始の。お津と路往へ。將あり。時おはし。と
やり。こして。居助とも。振付は。大袈裟に切倒し。汝が女児も
おふよりけ。今此の迷途へ急ぐらん。解も。迷ひ。道
よ。公高のわらりと刺通し。血刀。城入。後の方。初

竊ぐ。怒。飯を命。思。く。と。交。ひ。く。松雅。小。声。と。掛。小。賊。行
言。変。あり。と。お。と。あ。ら。ま。て。搦。ぬ。是。怒。飯。と。看。ま。ど。も。お。忌
不。喋。汝。竹。奴。ま。ま。と。糸。と。小。賊。と。い。右。長。し。予。い。麻。生。の
松雅。と。て。お。小。寄。く。強。盜。の。首。領。う。う。ふ。ぞ。る。斬。り。ぬ。ま
搜。狼。退。と。い。へ。る。倭。郎。を。停。めて。竹。用。あ。ら。ど。と。不。敵。の
言。は。怒。飯。と。ら。く。黄。今。勅。拜。と。う。ら。が。い。し。よ。倭。郎。は
茶。と。詐。り。谷。貝。邑。の。居。助。方。に。到。り。女。児。と。連。立。し。黄
金。と。奪。ひ。刻。と。女。と。害。せ。し。も。汝。が。お。業。な。らん。今。ま。ま。こ
居。助。と。も。お。小。う。け。ま。ゆ。らん。と。て。予。眼。を。め。り。て。い。や。い。ら。甚
し。お。小。い。ゆ。を。ま。ど。奪。ひ。し。黄金。も。予。は。興。へ。看。さ。し。逆。て
候。く。死。ふ。附。べ。し。と。大。言。せ。て。呵。く。と。笑。ひ。俵。の。肩。の。板

房助と救ひし。後客といはれよま。其別子に小喫喉二個
 と殺し。房助親子と助しとすつる。四へ海客は退跟ん
 持く。後と退まらうし。いふをせまふ。たうとす。侍を
 小喫喉どもの退薦。小海の首と貫らる。房助親子の
 路達とあり。け。朴刀引等まで。速速後へ。因と
 振て切跟ると。振合せて。丁度。面推系。形る山城。予
 と。なると。後て。えよと。退つ返。つ切筋。千。後。る。地。を。後
 い。る。ま。ど。退。ら。ず。互。ひ。の。子。孫。松。蘭。山。の。猛。虎。北。海。の。蒼。鈴。
 共に。路。ひ。と。奮。て。交。互。闘。が。如。く。推。し。が。往。ハ。傍。負。も。別。と。う
 う。う。が。然。取。子。孫。や。傍。子。けん。松。雅。の。剣。法。元。と。又。を。力。と
 う。う。て。逃。退。と。又。え。る。る。が。二。三。が。如。の。子。孫。と。負。ひ。眼。中

踏。ち。ぐ。泥。田。の中。く。狩。ひ。為。る。と。熊。坂。と。さ。捕。て。押。へ
 刀。刺。通。り。よ。拿。直。し。止。め。刺。んと。公。高。を。一。押。あ。て。し。が。竹。若
 けん。を。後。日。突。敵。ち。ま。よ。ま。ま。ば。松。雅。と。念。う。け。ぬ。竹。若。客。は
 其。家。と。仕。伏。ま。ぐ。その。ま。ま。小。姓。人。とい。豪。傑。と。似。げ。る。ま
 拳。勢。ま。る。り。性。名。も。名。素。す。世。は。く。苗。目。と。替。て。交。は。る。と
 鳴。ら。ま。い。熊。坂。へ。一。ら。く。今。汝。が。命。と。終。ん。易。ら。る。と。予
 お。り。よ。海。の。子。孫。の。悉。く。意。不。と。外。切。た。ま。ば。け。後。よ
 殺。す。と。い。一。命。ハ。助。う。ま。ん。を。中。子。の。下。小。組。者。に。殺。世。に
 等。しく。後。海。が。剣。法。強。氣。と。い。か。た。ら。此。士。今。亡。ん。ハ。益
 小。て。房。助。親。子。の。某。の。不。極。う。と。も。あ。ら。ど。ま。い。其。仇。討。も。そ
 る。海。客。の。あ。り。予。の。傍。く。木。の。削。殘。熊。坂。太。郎。長。軌。と。い

新編熊坂奇談

十三

りのく、美の城徒の首領まきども尚諸國と廻り日の下に
 一個の城看たらんんれあまの予任如ハ。越前國湯尾碓の
 山林よ。三草野四郎といへると始れ。三百余人の者共と從つへ
 とと予の初回國做し。武術と掃し海にこの豪傑ハ。喋
 喰よみさんんあまの今命はも終ず。控後せりと何れとせりて
 松雅記まことハ兼く。予の予。三草四郎等。首領として
 ことや。武藝といひ實仁大度の志。予も今より内身ハ。居
 備に山林よまき。城といへども英雄の名と成いさんと云れハ。
 幾段收い。一將ハ得難しと。予所統とる。こと海青本谷に
 まき。て。豪傑の交とを。世の歡樂と極む。こと。互いに
 抗ふの血汐ハ吞再會と結し。交る。越前國越前國と。

の方へぞ。越とぬ。以後去身長靴ハ。諸國と廻り。相摸の國
 小て。後入道押下小六。近の國ハ。指針を命。河内の道
 河陽に。あめて。三系右衛門。壬生の小猿。阿波の國ハ。徳島五郎。
 薩摩の國ハ。美為を身まとい。つる名なる。強盗と從へる
 信りまきども。前の文ハ。まき。死す。多く。因る。人の倦人と。敬て
 越前國の系ハ。志ばらく。系と止む。こと。越前國の。后青
 本谷ハ。會合做し。廿三系。はて入道と。め。越前國。入道
 長靴と名系。後七百余人の。小。喫喰と。後。ハ。美濃の國ハ
 住して。越前と奮ひ。越前と。風。成。ある。事。街道。小。も。勢。れ
 ぬ。こと。三系。の小。兒。も。其。名。と。知。り。人。々。怖。懼。する。こと。且。這。り
 次の系ハ。物。換。星。移。數。十年。を。經。る。後。法。と。又。ら。る。こと。

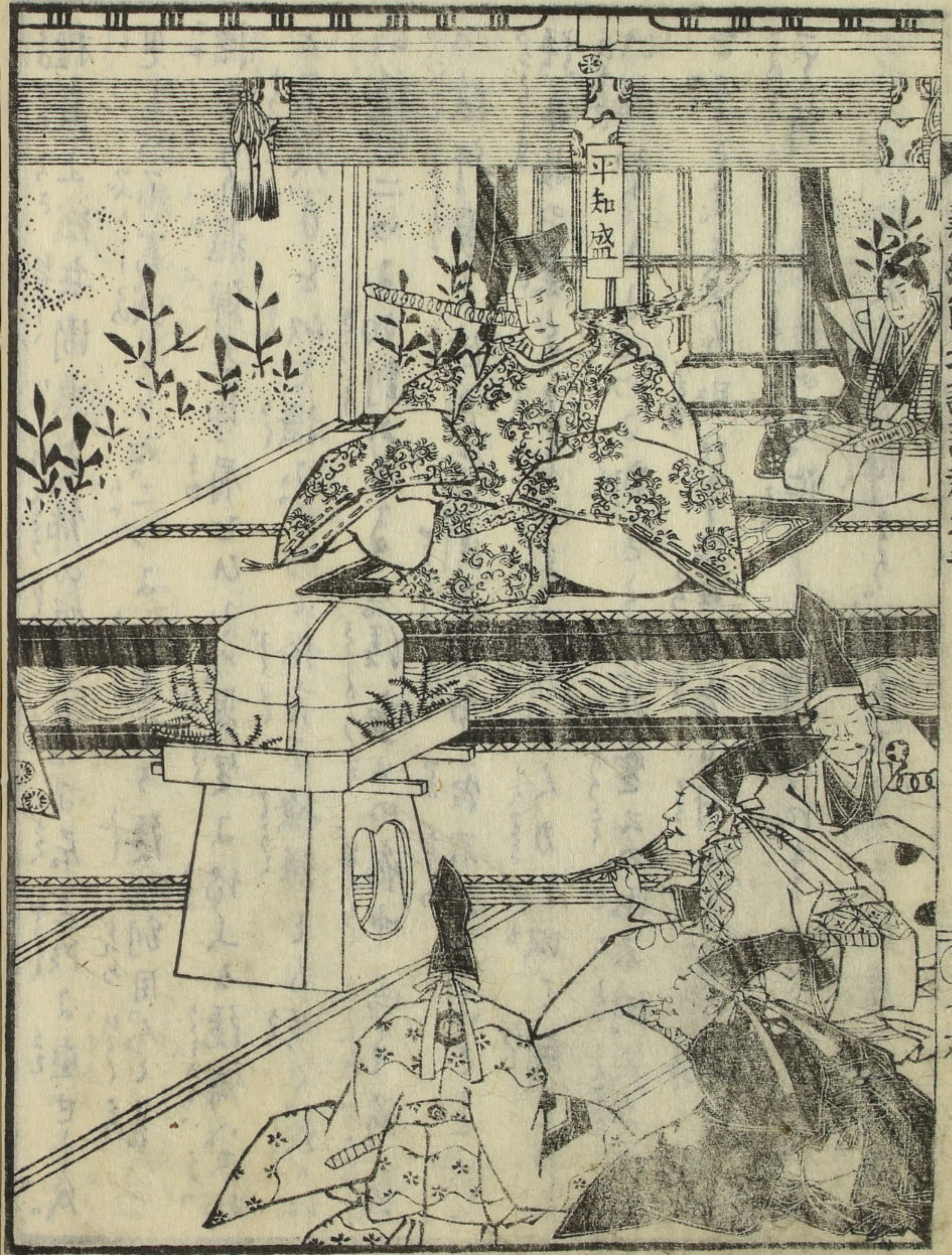
新編義経伝説書

十四



關原寺市

飛禪太郎



平知盛

根の堀巻せし藤刀の家弟一の市室と石清水八幡宮平
 家より五兵衛源家の武士お玉いらんとある夏の昔に
 ありしものありと洛中修おけえ沙洛中出せし人京作
 任后の根退極井内死しりの妻よりはし即果と抵連
 ころころ解交職の法へは侍ふと披るあまび飛弾を郎
 系連漢子の張良頂羽よ都と遷せんと喉と吐て天の
 若うくと産の口どととに言流りしごと源氏方のめども
 流言よとも討らまざるそいとぬまかくまると市およと一食
 儀し者遠へと言の下四十余りの女房と撰出せし系連
 看下し如何女海島家へ舞し不志の難談福流とよし
 行者よ憑きまじのころこと言出せるやまの並よ白出ると

とありきとに那女とと撞り捉まるとりまいらせしとへ
 包まざる有伴よ申とべしはまえ妻の存知たりとに侍
 らず吾夫或妻の妻物ごりよ平家の市代よは忍ごとお
 りら嚴島白神より平氏へ授る市室の薙刀石清水八
 幡宮を戻し源家の武士へおいらんとある夏とてし
 化んせそとの口尚も女のとがぬくつ人もおねえは
 の人へ不同けり世間へ廣くすえしはお神なりと夏と
 たるの吾夫内死し命儀あらば連合と出れしあまうしと
 己が罪以道とんとまに塗たる人非人敵の女とえに
 知豊命ありとるととも那長刀の高家繁業のあまの長
 初家の守儀たるしと嚴島の神父法堂の持とにまじ

以所へ士生邑の農まを呼出しを希系連問ていつらく
 ごとつる以海等の諸義一免あり一后根の怪巻一なる
 御薙刀給失行方志とすそ別家院へ個引渡一様の
 ま似せしもの共とを怪一々と其者家に出たり申した
 ばねよ里正面とあげまへ肘を系と申せしもの様の
 御業切者四へ綽とすと士生の小様と号その日も其者よ
 新めとせとふらふとて后梁八邑内逐電當今此所よ
 左合せずと系連とありふらへへ公當りの所へ村にお
 往ふとたつね扱来とまといそ扱よ及ばずと所扱と
 せしものども一個も不終止め置とすて驚く農まども
 手長揺べり里正まども庭ま味こらく肘を傍の行

と俸よ怪率ふとを至てけ續てけよ呼出とま扱まあるハ
 狼退の尾羽打拵一搦井内記二個の爺と扱居まば飛深
 景連言とつけいつよ内犯正八幡の神託として流まなす平
 家重室の長刀源氏方へ扱すとある後物持にお遠あら
 るりおと弱よ狼退答へていつらく遠ハ何更くとぞんせしに
 想ひかけざる御金儀を義ハ考ておぼえ取しと魚へよ
 系連居よるとかて確と賤跟まないとハ不屈奴即ち
 證人爰にあり誰うら白状の女連まると言に魚ドて扱
 出す女とらより搦井内犯平目よとくおくは毒しき我女
 房徳ハ汝の所人よなとつふ女ハ進ま考夫の雅義と考
 奉と言立るふハあらねども世間の流布よ御金議り

焦燥^{いらいら}を市^{いち}なとも押止^{おしとど}町人^{まちびと}百姓^{ひゃくせい}さんどのどく^{どく}よ^よ荒^{あらい}に
 せりとして向状^{むかうじやう}せんや^{せんや}先待^{まゝまち}まよとり^{まよとり}に系連^{けいれん}源家^{げんけ}の浪士^{なうし}
 と^と下^{した}の肩持^{かみもち}だて^{だて}い^い公^{こう}行^{ゆく}ずと^{ずと}角^{かく}立^た言^{こと}に^に市^{いち}借^かり
 肩持^{かみもち}とい^い催^{もよほ}が^が更^{さら}金^{かね}儀^ぎよ^よお^おめ^めて^て具^ぐ取^と願^{げん}の沙^さ汰^たせ^せる^る法^{はふ}基^{もと}
 ならず^{ならず}。廉^{れん}忽^{とつ}の一言^{いちごん}お^おへ^へら^らま^まよと^{よと}折^を返^{かへ}も^も市^{いち}へ^へ寄^より^り
 内^{うち}記^きが^が難^{なん}義^ぎい^いら^らや^やう^うふ^ふい^いと^とり^りとも^も怪^{あや}し^しと^と浪^{なう}士^し金^{かね}儀^ぎの^の筋^{すぢ}の
 行^{ゆく}如^{ごと}まで^{まで}も^も同^{どう}い^い借^かり^り向^{むか}状^{じやう}と^とせん^{せん}。約^{やく}速^{そく}な^なま^まが^が女^に白^{はく}状^{じやう}の^の切^{きり}
 よつて^{よつて}。金^{かね}儀^ぎの^の免^{めん}す^す。掛^かり^り身^みよ^よ立^たゆ^ゆま^まと^とある^るよ^よ。怪^{あや}し^し内^{うち}記^き
 が^が妻^{つま}立^たと^とる^ると^と法^{はふ}基^{もと}多^たう^うけ^け。女^にの^の身^みよ^よ金^{かね}儀^ぎあり^り者^{もの}共^{ども}ま^ま
 女^に借^かり^り上^{じやう}と^とよ^よと^と言^{こと}の^の下^{した}より^{より}亦^{また}借^かり^り上^{じやう}と^とま^まバ^バ飛^と彈^{だん}を^を希^{まれ}某^{これ}の^の
 免^{めん}せ^せし^し女^に何^{なん}科^かめ^めり^りて^て終^{しゆう}ら^らま^まし^しと^とり^りに^に冥^{めい}原^{げん}夫^ぶ内^{うち}記^きの^の

物^{もの}づ^づり^り。世^よと^とよ^よ。若^{わか}く^く左^{ひだり}法^{はふ}せ^せる^る元^{もと}の^のお^おり^りの^の女^にさ^さる^るよ^よ
 よつて^{よつて}。金^{かね}儀^ぎの^の深^{ふか}も^も同^{どう}い^い身^み内^{うち}記^きの^の下^{した}金^{かね}儀^ぎあり^り者^{もの}共^{ども}ま^ま
 が^が内^{うち}通^{とほ}ん^ん先^{まづ}今^{いま}日^ひハ^ハ兩^{りゆう}個^ことも^も。獄^{ごく}舎^{しゃ}へ^へ引^ひと^と法^{はふ}基^{もと}の^の言^{こと}に
 法^{はふ}基^{もと}を^を引^ひ立^たゆ^ゆ。其^{その}日^ひの^の金^{かね}儀^ぎハ^ハ止^{とど}ま^まふ^ふら^らな^なと^とハ^ハ二^{ふた}個^この^の法^{はふ}基^{もと}
 ハ^ハ次^{つぎ}の^の卷^{まき}を^を讀^よみ^み得^えて^て知^しる^るべ^べし^し。

新編熊坂説話卷之二

新編熊坂説話卷之二

